戸田市文化財調査報告　31

鍛冶谷・新田口 遺 跡 XI

埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査 報 告 書

２０２１

埼玉県戸田市教育委員会

はじめに

埼玉県の南東部に位置する戸田市は、荒川の自然に恵まれ、古くから交通の要衝として発展してきました。現在は交通の利便性から都心部のベッドタウンとして市街地化が進み、人口14万人を超える都市に成長しています。

近年、まちの景観の変化とともに社会的、文化的な環境も変わってきておりますが、古来から受け継がれてきた伝統や歴史を守り、人々の絆を一層強いものとするために、文化財の保護が求められているところです。

そのような状況下において、今回報告いたします鍛冶谷・新田口遺跡第１１次調査は、個人住宅建設に伴い、令和元年に緊急発掘調査が行われたものです。この発掘調査により、弥生時代後期から古墳時代前期に生活を営んだ人たちが遺した貴重な資料を多数検出し、当時の人々の生活や土地利用のあり方などを知る良好な資料を確認することができました。

本書が、戸田をより深く学習するための一助となることができましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、本事業の遂行にあたり、ご尽力、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

令和３年３月

戸田市教育委員会

教育長　戸ヶ﨑　勤

例　　言

1．本書は、埼玉県戸田市上戸田五丁目15番12に所在する鍛冶谷・新田口遺跡第11次発掘調査の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、事業者による個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として、埼玉県戸田市教育委員会（以下、「市教委」という。）が実施した。また、出土品整理及び報告書作成作業は、市教委が実施した。

3．発掘調査は、令和元年8月1日から令和元年9月30日まで行い、整理作業・報告書作成作業は令和元年10月1日から令和3年2月26日まで市教委生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市立郷土博物館にて実施した。

4．発掘調査及び整理作業、報告書作成に要した経費は、全て戸田市の負担による。

5．本書は、市教委が刊行し、今井源吾が編集及び執筆を行った。

6．発掘現場での記録写真、出土遺物の撮影は今井源吾が行った。

7．本書の版権は、市教委が保有する。発掘調査成果の周知、活用、学術研究、教育等を目的とする場合は、本書の一部を無償で複製し、利用できるものとする。

8．出土遺物及び発掘調査の各種データ等は全て市教委が保管し、活用を図るものとする。

9．本事業は、以下の組織により実施した。

【埼玉県戸田市教育委員会】

教育長　　戸ヶ崎　勤
教育部長　　山上　睦只
次　　長　　星野　正義
生涯学習課長　　福田　忠史（令和3年1月17日まで）
　　関根　　晃（令和2年4月1日から）
生涯学習課主幹　　細井　薫子
生涯学習課主任　　吉田　幸一（令和2年4月1日から）
生涯学習課主事補　今井　源吾（出土品整理・報告書作成担当）

発掘調査及び整理作業参加者

一瀬浩平　榎本　昇　榎本眞由美　大熊福太郎　金子エリ　中信節子　山岸　榮

10．調査及び本書を作成するにあたり、次の方々・機関にご指導、ご協力を賜った。記して謝意を表するものである。

若松　良一

（敬称略　五十音順）

凡　　例

1．　挿図中の地図、検出遺構実測図等の方位は、図中に真北の方位を示した。

2．　本書の国家座標、緯度、経度は世界測地系に則している。

3．　遺構番号は調査の進捗過程で、そのプランの確認された順に遺構の種別ごとに付したが、整理・報告書作成作業の過程で遺構番号を振り直している。なお。遺構略号は下記のとおりである。

SI：竪穴建物　SX：周溝状遺構　SD：溝状遺構　SK：土坑　P：ピット

4．　発掘調査時の土層観察における色調及び遺物観察における色調は、『新版　標準土色帖』2013 年度版（小山正忠・竹原秀雄　編・著、農林水産省農林水産技術会議事務所監修、財団法人日本色彩研究所　色票監修、日本色研事業株式会社　発行）を参考にした。

5．　遺構断面図内の土層説明は、全て記録者の記載に従う。

6．　遺物拓影図は、向かって左側に内面を、右側に外面を示した。ただし外面のみの場合には、向かって左側に外面を示した。

7．　遺物の種別のうち、弥生時代後期後半から古墳時代前期に属する土器は、すべて「土師器」と表記した。

8．　遺物実測図のうち、土師器の断面は白抜きにした。また、拓影がない赤彩部はトーンで図示した。

9．　遺物観察表法量の［　］の値は残存部からの推定値を示す。

10．遺物実測図及び遺構実測図、写真図版の縮尺はすべて挿図中に示した。

11．標高は、T．P（東京湾中等潮位）を基準とした。

12．遺構実測図の水系レベルはすべて標高 3.00m に統一した。

13．土層断面図の層位番号は、基本土層と共通するものはローマ数字、個別の遺構覆土の層位はアラビア数字で示した。

14．遺物実測図及び遺物写真図版の個別番号のうち、「①」のように示した遺物は遺構平面図中に出土地点を示した資料であり、遺構平面図中の「①」に対応している。一方、「1」のように示したものは一括取り上げ資料であり、遺構平面図に出土地点を示していない資料である。

15．出土遺物の註記は、下記の原則に基づき行った。

例：KS．　11．　SI －　1．　1

遺跡略　調査次　遺構種　遺構番号　遺物番号

表面採取遺物や撹乱層出土遺物については、遺跡略号及び調査次のみを記載した。

なお、写真図版中の遺物写真には、旧遺構番号のまま註記を修正していないものがある。

目　　次

はじめに
例　言／凡　例
目次／挿図目次／挿表目次／図版目次
第１章　調査に至る経緯と経過
　第１節　調査に至る経緯／・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　第２節　発掘調査と整理作業の経過
　　１　発掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　　２　整理作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
第２章　周辺環境と遺跡・調査の概要
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
　第３節　遺跡・調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　第４節　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
第３章　検出された遺構と遺物
　第１節　弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物
　　１　竪穴建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　　２　周溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
　　３　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
　第２節　古代から近世の遺構と遺物
　　１　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
　　２　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
　第３節　その他の遺構と遺物
　　１　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
　　２　遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
第４章　まとめ
　　１　弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・２９
　　２　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録 / 奥付

挿図目次

第１図　埼玉県の地形・・・・・・・・３
第２図　戸田市域の地形・・・・・・・４
第３図　鍛冶谷・新田口遺跡及び周辺の遺跡位置図・・・・・・・・・・・５
第４図　鍛冶谷・新田口遺跡調査区位置図・・・・・・・・・・・・・・・８
第５図　調査区全体図・・・・・・・・９
第６図　調査区等高線図・・・・・・１０
第７図　基本土層図・・・・・・・・１２
第８図　第１・２・３号竪穴建物実測図（SI01・02・03）・・・・・　１３
第９図　第１号竪穴建物実測図（SI01）・・・・・・・・・・・１４
第１０図　第１号竪穴建物出土遺物実測図（SI01）・・・・・・・・・・・１４
第 11 図　第２号竪穴建物実測図（SI02）・・・・・・・・・・・１５
第 12 図　第２号竪穴建物出土遺物実測図（SI02）・・・・・・・・・・・１５
第 13 図　第３号竪穴建物平面実測図（SI03）・・・・・・・・・・・１６
第 14 図　第３号竪穴建物断面実測図（SI03）・・・・・・・・・・・１７
第 15 図　第３号竪穴建物内ピット実測図（SI03）（1）・・・・・・・・・１８
第 16 図　第３号竪穴建物内ピット実測図（SI03）（2）・・・・・・・・・１８
第 17 図　第３号竪穴建物出土遺物実測図（SI03）（１）・・・・・・・・・１９
第 18 図　第３号竪穴建物出土遺物実測図（SI03）（２）・・・・・・・・・１９
第 19 図　第１号周溝状遺構実測図（SX01）・・・・・・・・・・２０
第 20 図　第１・３号土坑実測図（SK01・03）・・・・・・・・・２１
第 21 図　第４・６号土坑実測図（SK04・06）・・・・・・・・・２２
第 22 図　第１号溝状遺構実測図（SD01）・・・・・・・・・・・２３
第 23 図　第２号溝状遺構実測図（SD02）・・・・・・・・・・・２４
第 24 図　第２・５号土坑実測図（SK02・05）・・・・・・・・・２５
第 25 図　第２号土坑出土遺物実測図（SK02）・・・・・・・・・・・２５
第 26 図　第７・15 号ピット実測図（P07・15）・・・・・・・・・　２６
第 27 図　第７・15 号ピット出土遺物実測図（P07・15）・・・・・・・・・　２６
第 28 図　遺構外出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・２８

挿表目次

第１表　鍛冶谷・新田口遺跡周辺遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・５
第２表　第１号竪穴建物出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・１４
第３表　第２号竪穴建物出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・１５
第４表　第３号竪穴建物出土遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・１９

第５表　第２号土坑出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・２５
第６表　第７・15 号ピット出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・２６
第７表　ピット計測表
・・・・・・・・・・・・・・・２７
第８表　遺構外出土遺物観察表
・・・・・・・・・・・・・・・２８
第９表　遺物出土点数・重量一覧
・・・・・・・・・・・・・・・２８

図版目次

図版１
1　１区完掘（東から）
2　２区完掘（北西から）

図版２
1　第１号竪穴建物炉１断面（南から）
2　第１号竪穴建物炉２断面（南から）
3　第２号竪穴建物掘方（南から）
4　第３号竪穴建物床面全景（南西から）
5　第３号竪穴建物掘方全景（北東から）
6　第３号竪穴建物貯蔵穴遺物出土状況（東から）
7　第１号周溝状遺構完堀（北西から）
8　第１号周溝状遺構南壁断面（北から）

図版３
1　第４号土坑完堀（西から）
2　第６号土坑完堀（北から）
3　第２号溝状遺構完堀（東から）
4　第２号土坑遺物出土状況（北西から）
5　第 15 号ピット遺物出土状況　（南東から）
6　基本土層（西から）
7　２区作業状況（南から）
8　２区冠水状況（南西から）

図版４
出土遺物①

図版５
出土遺物②

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

令和元年５月と６月に、それぞれ別の事業者から戸田市教育委員会（以下、「市教育委員会」という。）に対し、戸田市上戸田五丁目15番12における61.41㎡と61.1㎡の個人住宅建設事業計画及び埋蔵文化財の取り扱いについて相談があった。

当該事業計画地は、平成30年９月10日に、別の事業者からの依頼に基づき市教育委員会による試掘確認調査を実施していた。試掘調査では、弥生時代末から古墳時代前期に帰属する溝状遺構と性格不明遺構等が確認され、同時期に帰属するものと考えられる土器を検出していたが、この試掘調査のきっかけとなった事業については、中止となっていた。

今回の事業計画地について過去の試掘調査の結果に基づき市教育委員会と事業者間で埋蔵文化財の保存について協議をもち、基礎工事等で埋蔵文化財の破壊が避けられない部分（40.83㎡と36.54㎡）については記録保存のための緊急発掘調査を行い、残りの部分（20.58㎡と26.56㎡）は、遺構確認面から30㎝以上の保護層を確保することにより埋蔵文化財の現状保存を実施することで合意した。

令和元年５月８日と令和元年６月17日に、事業者から文化財保護法第93条の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、市教育委員会は令和元年７月11日付け戸教生第722号・第723号にて埼玉県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）に宛て進達した。

これを受け、県教育委員会から事業者に対し、令和元年８月19日付け教生文第4-61号で、事業計画地内における工事着手前に発掘調査を実施するよう指示があった。

発掘調査に当たり、各事業者は市教育委員会に対し、令和元年７月１２日付けで発掘調査の依頼書を提出した。また、令和元年７月10日付け戸教生第822号と第823号にて事業者及び市教育委員会の二者による「戸建専用住宅建設予定地に係る埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」を締結した。

そして、文化財保護法第99条に基づき、市教育員会から県教育委員会宛てに令和元年７月26日付け戸教生第957号と第1006号にて埋蔵文化財発掘調査の通知を提出し、鍛冶谷・新田口遺跡第11次発掘調査を実施することとなった。

第２節　発掘調査と整理作業の経過

１　発掘調査

鍛冶谷・新田口遺跡第11次調査は、1区は令和元年8月1日から8月28日まで、2区は令和元年8月1日から9月30日まで実施した。調査面積は、1区が40.83㎡で2区は36.54㎡である。8月1日に1区と2区の調査区設定、発掘現場の仮囲い等を行った。2日に重機による表土剥ぎを実施し、掘削した排出土はダンプにより調査区外に搬出し保管した。機材等は、現場で保管した。5日に発掘調査補助員を動員し、人力による遺構確認を行い、遺構検出状況の写真撮影を行った。発掘調査での写真撮影は、全てデジタル一眼レフカメラNikon D5100を使用し、JPEG形式にて撮影した。また7日に、委託業者による調査区の測量、基準杭打設を行った。併せて２ｍ四方のグリッドを設定し、全体の測量図を作成した。

1区は5日から検出された遺構の番号付与及び土層観察用ベルトを設定し、遺構掘削を開始した。8月1日から27日まで遺構掘削を行い、遺構平面図、土層断面図作成、出土遺物の取り上げを行った。平面図及び出土遺物の取り上げは、全て簡易遣り方測量で実施した。遺構掘削で生じた排出土は、当該開発予定地内に仮置きした。1区の調査は、8月28日までに終了し、28日に重機による埋め戻し及び整地などの現状復帰を実施した。

2区は、8月28日から検出された遺構の番号付与及び土層観察用ベルトを設定し、遺構掘削を開始した。8月28日から9月27日まで遺構掘削を行い、遺構平面図、土層断面図作成、出土遺物の取り上げを行った。平面図及び出土遺物の取り上げは、全て簡易遣り方測量で実施した。遺構掘削で生じた排出土は、当該開発予定地内に土嚢詰めしたあと仮置きした。2区の調査は、9月30日までに終了し、28日と30日に機材整理及び土嚢崩しを行い、併せて重機による埋め戻し及び整地を実施し、全ての現場作業が完了した。

２　整理作業

当該調査に係る出土品及び図面の整理作業、報告書作成は令和元年10月１日から令和3年3月31日まで生涯学習課埋蔵文化財等整理室及び戸田市立郷土博物館にて実施した。

発掘現場で採取した出土品は、洗浄・註記・接合を行った。その後、報告書に掲載する遺物の抽出・実測図作成・拓影採取を行った。採取した拓影はスキャナにてコンピュータに取り込んだ後、Adobe Photoshopにて修正し、デジタルデータ化した。遺物実測図、発掘現場で遺構平面図、土層断面図等の図面類も、スキャナでコンピュータに取り込み、デジタルデータ化した。これらの各種図面データは、Adobe Illustratorにてデジタルトレースを行った。

遺物写真は、Nikon D610、105ｍｍ単焦点マクロレンズを使用してRAW（NEF）形式で撮影し、Adobe Camera Rawにより現像処理、ホワイトバランス等の補正を行い、TIFF形式ファイルを作成した。版下は、Adobe Illustrator、Adobe InDesignにて作成し、PDF形式ファイルにて入稿した。

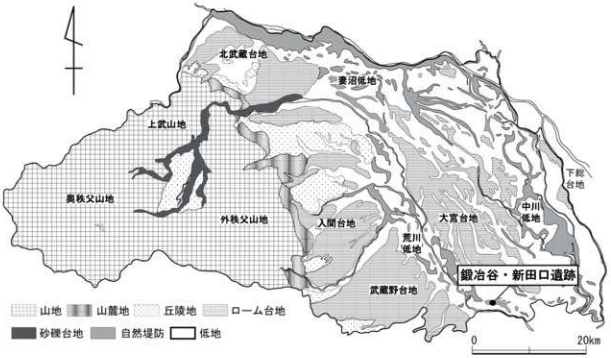
第２章　周辺環境と遺跡・調査の概要

第１節　地理的環境

戸田市は、埼玉県最南端部に位置し、東西約 6.0km、南北約 3.0km、面積 18.19　㎢の東西に細長い形状を呈する。北はさいたま市、東は蕨市及び川口市にそれぞれ地続きで接し、西の朝霞市及び和光市、南の東京都板橋区及び北区とは、荒川を隔てて接している。市域には、国道 17 号線（旧中山道）や新大宮バイパスが南北に走り、首都高速５号線、東京外郭環状道路、JR 埼京線の開通により、交通の利便性が高まり、急激な市街地化が進んでいる。都心に近い立地のため、工場や流通センターが数多く所在する。

戸田市の地形は、約２万年前の最終氷期に形成された開析谷を、利根川等の河川が運搬した土砂で充填してできた平坦な沖積低地 (荒川低地) に位置している。荒川低地の下流には標高３ｍほどの微高地が発達し、市内では中央部を西は美女木から上戸田を通り、東は川口市まで荒川にそって分布し、この微高地の南北に低地が裾のように広がる。この微高地は自然堤防とする説もあるが、荒川右岸に微高地が確認できないことや、形状が団子状を呈していることから浅谷もしくは海成段丘との指摘もある。

市内の地層は、戸田市本町付近では地下５０ｍの地点に開析谷の基底礫層があり、その上に軟弱な沖積層が充填している。沖積層の上部２ｍから３ｍの層は戸田・蕨地域ではよく見ることができる黄褐色・灰白色のシルト質粘土層で、戸田市においては遺跡の検出面としている層である。この層は岩質が均一である点や、微低地にはヨシ・マコモなどの水辺植物の遺体から

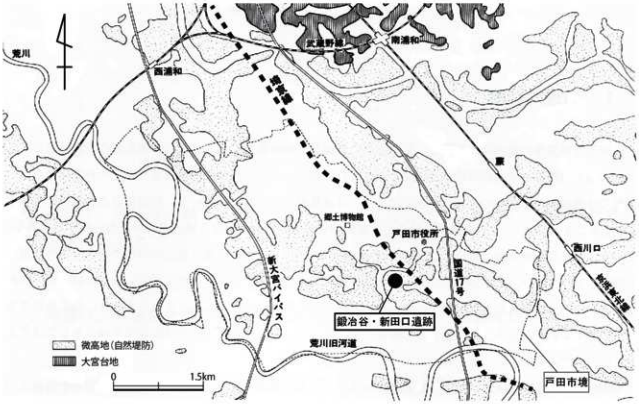


第１図　埼玉県の地形

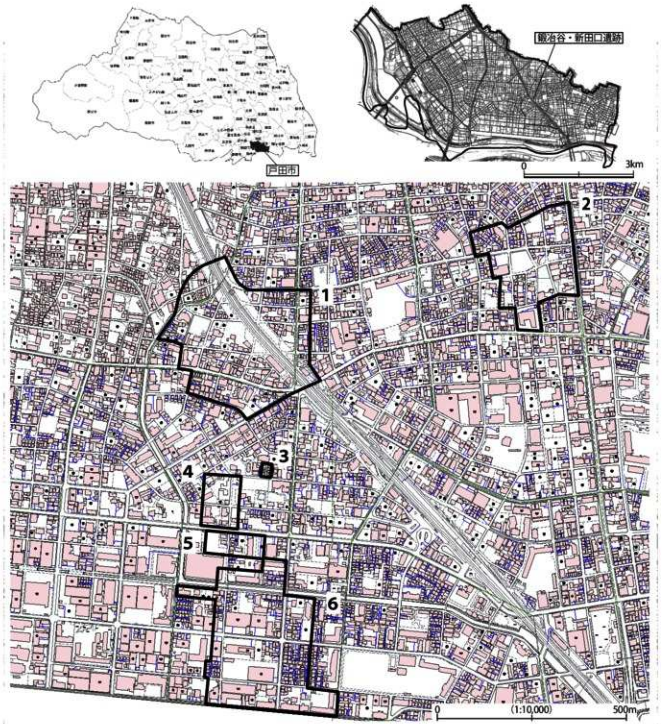
なる泥炭層が挟在していることから、荒川低地を流れていた旧利根川が中川低地に東遷し、デルタ的環境から流水の影響の少ない湖沼・潟的な環境に移行した後に形成された層である。形成時期については、泥炭層の炭素年代が 1640±60yBP とされることから、弥生時代末から古墳時代前期の時期にあたり、市内に初めて集落が形成された当時は微高地の周囲には湖沼・潟的な環境が広がっていたと見られる。

第２節　歴史的環境

戸田市では、現在までのところ旧石器時代の遺構・遺物は確認されていない。縄文時代に帰属する遺跡も確認されていないが、縄文時代前期後葉から後期中葉までの土器片が検出されている。前期では、堤外から前期後葉諸磯ａ式の破片資料１点が出土しており、本町からは前期末のほぼ完形の十三菩提式深鉢形土器が出土している。また、戸田市文化会館の建設中に、含礫砂層から縄文時代前期から中期の頃の化石人骨が見つかっている。人骨の周囲には丸木舟と見られる木屑なども見つかっており、この時期の戸田市域が海進の影響を受けていたことが分かる。中期は、鍛冶谷・新田口遺跡・前谷遺跡や南原遺跡などで勝坂式･阿玉台式や加曽利Ｅ式期の土器片が検出されている。後期は、鍛冶谷･新田口遺跡では、堀之内式、加曽利Ｂ式の土器片が出土しており、堤外からも同型式期に帰属する土器片が出土している。



第２図　戸田市域　の地形



第３図　鍛冶谷・新田口遺跡及び周辺の遺跡位置図

第１表　　鍛冶谷・新田口遺跡周辺遺跡の概要

NO.	遺跡名	所在地	種別	主な時代	立地
1	鍛冶谷・新田口遺跡	戸田市上戸田３・５丁目，本町３丁目，大字新曽	集落跡	弥生後期・古墳前期	微高地
2	前谷遺跡	戸田市上戸田２丁目	集落跡・城館跡	弥生後期・古墳前期・平安・鎌倉・南北朝・室町	微高地
3	大前遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡	古墳前期・平安・南北朝・室町	微高地
4	上戸田本村遺跡	戸田市本町３丁目	集落跡・円墳	古墳後期	微高地
5	南町遺跡	戸田市南町	集落跡	古墳前期	微高地
6	南原遺跡	戸田市南町	集落跡・円墳	弥生後期・古墳前/後期・奈良・平安・鎌倉	微高地

縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺構・遺物は確認されていないが、弥生時代後期末から古墳時代前期初頭になると、市域内の微高地上に遺跡が形成されるようになる。

弥生時代後期末から古墳時代前期では、前谷遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、南町遺跡、南原遺跡、上戸田本村遺跡及び根木橋遺跡で遺構・遺物が検出されている。この中でも昭和51年(1976)に埼玉県選定重要遺跡に選定された鍛冶谷・新田口遺跡は、当該期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や集落跡、木器の出土などから全国的に有名である。上戸田本村遺跡では、第２次及び第３次調査では、環濠と思われる溝状遺構と溝の東部に密集する竪穴住居跡群を検出していることから、上戸田本村遺跡周辺が当該期の環濠集落であった可能性が高い。中期の遺構・遺物が検出された遺跡は南原遺跡第２次調査Ｂ区で竪穴住居跡３軒、第９次調査で井戸跡１基、第10次調査で竪穴住居跡１軒と、土坑２基が確認されたのみである。

古墳時代後期は、上戸田本村遺跡や南原遺跡周辺で群集墳が形成される時期である。上戸田本村遺跡内には、「くまん塚」と呼ばれた円墳が所在し、そこから横穴式石室の石材の一部と直刀２振が出土している。また、上戸田本村遺跡では鬼高期の竪穴住居跡２軒、馬形埴輪や人物埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が１基検出されている。南原遺跡では、第１次調査で人物埴輪、円筒埴輪等が出土した円墳１基、第２次調査Ａ区で円形周溝墓（円墳）１基、第３次調査Ｄ区で鬼高式期の竪穴住居跡１軒と屋外竈１基、第４次調査で円形周溝墓（円墳）２基、６次調査で円形周溝墓（円墳）１基、第８・９次調査で馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪、円筒埴輪等が出土した古墳周溝が２基検出されている。第１２次調査では、人物埴輪、鶏形埴輪、円筒埴輪が出土した古墳周溝が１基検出されている。

平安時代は、南原遺跡、鍛冶谷・新田口遺跡、前谷遺跡で竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑群、柵列跡、畝状遺構が検出されている。

中世は、市の西部からさいたま市の南西部がかつて佐々目郷に当たり、鎌倉時代から戦国時代にかけて鶴岡八幡宮の社領であった。当該期は、大前遺跡や前谷遺跡、南原遺跡、南町遺跡及び美女木八幡社脇遺跡で掘立柱建物跡、溝状遺構、井戸跡などが検出されている。

近世は、市の大半の村が幕府の直轄領となり、徳川家の鷹場として使用されていたことが分かっている。また、五街道の一つである中山道の整備に伴い、荒川を渡る「戸田の渡し」が板橋宿と蕨宿を結ぶ交通の要所として機能していた。当該期は鍛冶谷・新田口遺跡第９次調査で溝状遺構や井戸跡が、美女木八幡社脇遺跡では美女木八幡社を廻っていた堀の跡が検出されている。

第３節　遺跡・調査の概要

鍛冶谷・新田口遺跡の名称は、この地域がかつて「鍛冶谷（屋）」、「新田口」と呼ばれていた二つの地域に所在していたことに由来する。この遺跡は昭和42年に戸田市で最初の発掘調査が行われた遺跡であり、昭和51年には弥生時代から古墳時代に低地に形成された稀有な集落遺跡として、埼玉県選定重要遺跡に選定されている。また、昭和57年から60年には東北・上越新幹線および埼京線敷設に伴う大規模な発掘調査が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（以下「事業団」という）によって行われ、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓（周溝状遺構）群や竪穴住居群、またこれ

に伴う大量の遺物の検出により、当該期の大規模な低地式集落の発掘調査事例として注目を集めた。

鍛冶谷・新田口遺跡は、本調査を含めてこれまでに 12 回に渡る発掘調査が行われている。戸田市教育委員会調査が 7 回、戸田市遺跡調査会調査が 4 回、事業団調査が 1 回である。なお、下記の「周溝状遺構」は報文中では全て「方形周溝墓」と記載されているが、表記を統一するために「周溝状遺構」の語を使用している。また本報告で「竪穴建物」としている遺構については、下記報告書で「竪穴住居」としているものと同じ性格の遺構である。近年住居以外の役割を持つ竪穴建物が確認されていることから、本報告では「竪穴建物」と標記していることを付記しておく。

第 1 次調査は、鯉のぼりのポールを建てる際に偶然土器の破片が発見されたことをきっかけとし、戸田市教育委員会が学術調査として昭和 42 年 8 月 6 日から 12 日までの期間で実施した。発掘調査は A 区、B 区の 2 地点において行われ、A 区では弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構 3 基、B 区では同時期の周溝状遺構 2 基と竪穴住居 1 軒が検出された。周溝状遺構から出土した土器は遺存状態が良好であり、S 字口縁を有する甕形土器をはじめとする東海地方系の土器も出土した。また、竪穴住居の貯蔵穴からは甑セットが略完形で出土した。

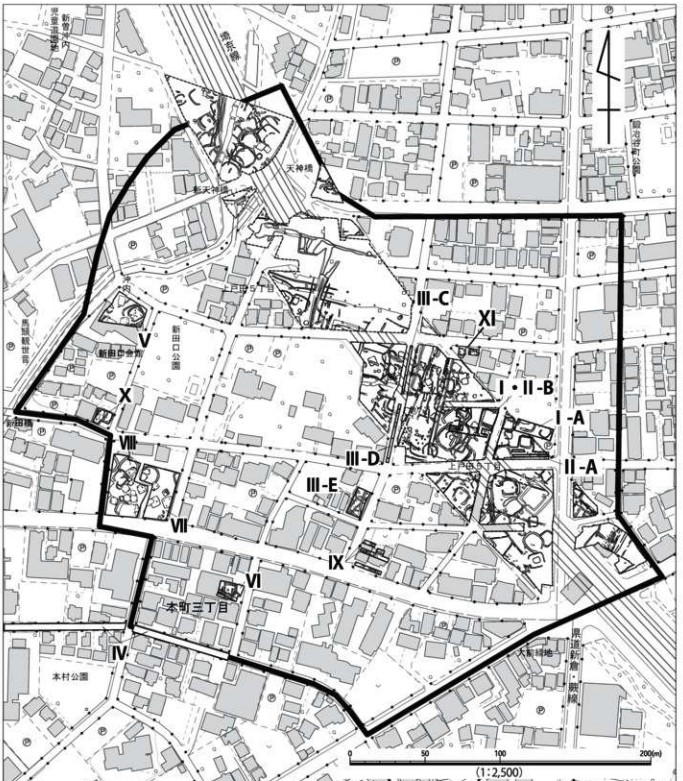
第 2 次調査は、第 1 次調査の継続調査として戸田市教育委員会が昭和 43 年 7 月 26 日から 8 月 2 日までの期間で実施した。2 次調査 A 区は 1 次調査 A 区の南側に設定され、ここから弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構 2 基が検出された。また、2 次調査 B 区は 1 次調査 B 区を東西へ拡張するように設定され、1 次調査で既に検出されていたものを含め計 7 基の周溝状遺構が検出された。

事業団の調査は、東北・上越新幹線、埼京線敷設工事に伴う緊急発掘調査として、昭和 57 年 4 月から昭和 60 年 3 月までの約 3 年間に渡って実施された。なお、市教育委員会による第 1 次・第 2 次調査区は、この調査で再調査が行われている。調査で検出された遺構は、竪穴住居 37 軒、周溝状遺構 95 軒、井戸跡 82 基、土坑 166 基、溝状遺構 232 条である。竪穴住居、周溝状遺構は全て弥生時代後期から古墳時代前期に帰属するものであり、当該期の集落の大部分が発掘された重要な調査事例となっている。

第 3 次調査では、下水道整備工事に伴う緊急発掘調査として C・D 区が、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として E 区が調査された。発掘調査は戸田市教育委員会が主体となり、昭和 57 年 10 月 5 日から 30 日までの期間で実施された。C 区からは溝状遺構 5 条、D 区からは溝状遺構 4 条と土坑 7 基を検出した。これらのうち、C 区の溝状遺構 2 条は事業団による調査によって、同一の周溝状遺構に帰属するものであることが判明している。また、D 区の溝状遺構 2 条についても、それぞれが周溝状遺構の一部であったことが判明している。E 区からは周溝状遺構 3 基と溝状遺構 4 条が検出された。特に第 2 号周溝状遺構からは、良好な遺存状態で弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土した。

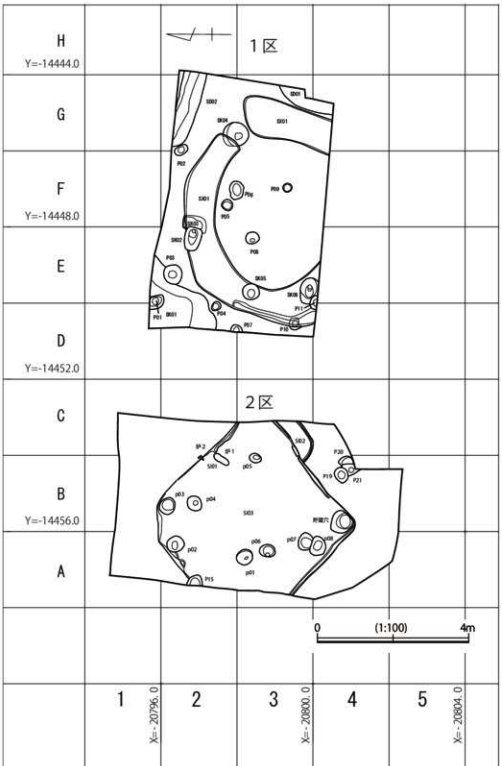
第 4 次調査は昭和 58 年に市教育委員会が実施したが、調査内容については不明である。

第 5 次調査は、事務所建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成元年 2 月 1 日から 2 月 23 日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構 2 基、竪穴住居 2 軒や土坑 1 基、溝状遺構 7 条が検出された。周溝状遺構は 1 辺を重複して入れ子状に検出され、周溝の内側に環状に巡るピット列と方形に並ぶ 4 基のピットが確認された。周溝状遺構が「周溝を有する建物跡」であった可能性を示唆する調査事例である。検出された竪穴住居はいずれも焼失住

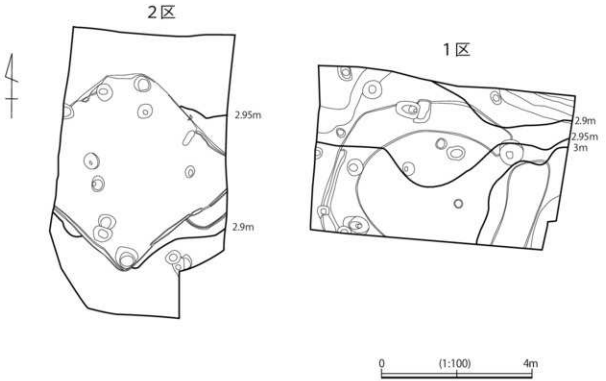


Ⅰ　第１次調査（1967）：戸田市教育委員会調査（塩野ほか 1968・塩野ほか 1969）
Ⅱ　第２次調査（1968）：戸田市教育委員会調査（塩野ほか 1969）
Ⅲ　第３次調査（1982）：戸田市教育委員会調査（伊藤ほか 1984）
Ⅳ　第４次調査（1983）：戸田市教育委員会調査（未報告）
Ⅴ　第５次調査（1989）：戸田市遺跡調査会調査（小島 1990）
Ⅵ　第６次調査（1992）：戸田市遺跡調査会調査（小島 1994）
Ⅶ　第７次調査（1997）：戸田市遺跡調査会調査（小島 2001）
Ⅷ　第８次調査（1999）：戸田市遺跡調査会調査（小島 2005）
Ⅸ　第９次調査（2015）：戸田市教育委員会調査（岩井ほか 2015）
Ⅹ　第10次調査（2015）：戸田市教育委員会調査（岩井 2016）
Ⅺ　第11次調査（2019）：戸田市教育委員会調査（本報告）
□　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査（1982～1985）（西口ほか 1986）

第４図　鍛冶谷・新田口遺跡調査区位置図


H
Y=-14444.0
G
F
Y=-14448.0
E
D
Y=-14452.0
C
B
Y=-14456.0
A
1区
2区
0
(1:100)
4m
1
2
3
4
5
X=-20796.0
X=-20800.0
X=-20804.0

第５図　調査区全体図



第６図　調査区等高線図

居であり、炭化材等が多く検出された。

第６次調査は、寄宿舎建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成４年１月 16 日から２月 26 日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構１基、溝状遺構１条、土坑１基、近世（18 世紀～ 19 世紀）の土坑１基、堀跡１条が検出された。周溝状遺構は、段および溝中土坑と思われる掘り込みを有するものである。

第７次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成９年９月 20 日から 11 月 27 日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居６軒、周溝状遺構２基、土坑４基が検出された。竪穴住居は計６軒のうち５軒から多量の炭化物が検出されており、焼失住居であった可能性が指摘されている。周溝状遺構は、第１号周溝状遺構が略円形を呈しており、溝中土坑からは良好な遺存状態で土器が出土している。また、第２号周溝状遺構は覆土中層に多量の炭化物が混入している箇所が見られ、周辺から良好な遺存状態で土器が出土している。第３号土坑・第４号土坑からは比較的多量の土器が出土しており、小型の坩形土器やＳ字口縁甕型土器、頸部に凸帯を有する壺形土器が出土している。

第８次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市遺跡調査会が平成 11 年７月 21 日から９月21日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居 12 軒、周溝状遺構７基が検出された。第１・２・３・７号周溝状遺構では、覆土中に焼土や炭化物の分布が確認されている。また、第３号周溝状遺構からは頸部に凸帯を有する壺形土器が出土している。

第９次調査は、共同住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が平成 27 年１月６日か

ら平成 27 年 1 月 29 日までの期間で実施した。調査区からは弥生時代後期から古墳時代前期の周溝状遺構 5 基、溝跡 1 条、土坑 1 基、ピット 4 基、中世の溝跡 1 条、井戸跡 4 基、土坑 1 基、近世の溝跡 5 条、井戸跡 2 基、土坑 3 基、ピット 2 基が検出された。中世の第 3 号溝跡と第 2 号井戸跡は「排水施設」であった可能性があり、また、近世の溝跡は地割溝であった可能性があることが指摘されている。

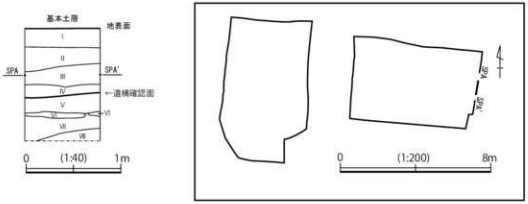
第 10 次調査は、個人住宅建設に伴う緊急発掘調査として戸田市教育委員会が平成 27 年 4 月 6 日から 5 月 7 日までの期間で実施した。検出した遺構は、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の竪穴住居跡 1 基、周溝状遺構 4 基、その他溝状遺構 1 条、ピット 24 基を検出した。また、これらの遺構に伴い、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の土師器、土師器転用砥石、中世の板碑が出土した。特に、第 2 号周溝状遺構　からは良好な遺存状態で土器が大量に出土したことが特筆できる。

本調査は、事業団調査を除くと第 11 次目の発掘調査となる。今回の調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の竪穴建物跡 3 基、周溝状遺構 1 基、土坑 4 基、その他溝状遺構 2 条、土坑 2 基、ピット 21 基を検出した。また、これらの遺構に伴い弥生時代後期後半から古墳時代前期の土師器、石製品、近世の陶磁器などが出土した。

第４節　基本土層

基本土層は、Ｇ－２・３グリッドで地表面下1.2mまで堆積を確認し、８層に分層した（第７図）。また、本調査区の遺構確認面の標高は、おおよそ2.90ｍ～3.00ｍであり、顕著な起伏はなく、ほぼ平坦である。

Ⅰ層とⅡ層は、暗褐色土の表土攪乱層であり、現代の攪乱の影響を受けている。Ⅲ層は、褐灰色土層の耕作土層で、『武蔵国郡村誌』に薄赤真土と見える土層と考えられる。Ⅳ層は、黒褐色層でⅤ層を多く含み、遺構の覆土と近似する。Ⅴ層は、灰黄褐色の粘質土層であり、本層の上面において遺構を検出したため、遺構確認面として認識した。Ⅵ層は、暗褐色質粘土であり粘性が強く、泥炭層の可能性がある。Ⅶ層は、オリーブ黄褐色土で粘性が強い。Ⅷ層は、暗灰黄褐色土でⅦ層より褐鉄鉱を多く含み、北側に向かって傾斜する。Ⅴ層以下は粘性の強いシルト・粘土層で層位に大きな変化は見られない。このことから湖沼・潟のような静水状況の中で堆積した土層とみられ、微高地から水が引いた弥生時代後期から古墳時代前期初頭に遺跡が形成されたと想定される。



基本土層　土層説明　SPA-SPA'

Ⅰ・Ⅱ層　表土攪乱層

Ⅲ層　色調：１０YR５/２灰黄褐色土　炭化物・焼土を含む。近世から近代にかけての耕作土層と思われる。

Ⅳ層　色調：１０YR３/３暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。灰黄色シルトを含む。一部２層に分かれる。

Ⅴ層　色調：２.５Y６/２灰黄色シルト　しまり強、粘性やや強。遺構確認面。

Ⅵ層　色調：１０YR３/３暗褐色粘土　しまり強、粘性強。赤色粒φ１mm微量含む。泥炭層か。

Ⅶ層　色調：２.５Y４/３オリーブ褐粘土　しまり強、粘性強。暗褐色ブロックφ１cm～５cm中量含む。

Ⅷ層　色調：２.５Y５/２暗灰黄色粘土　しまり強、粘性強。暗褐色土φ１～５mm少量含む。

Ⅴ層以下の層は褐鉄鉱が多く確認できる。

第７図　基本土層図

第３章　検出された遺構と遺物

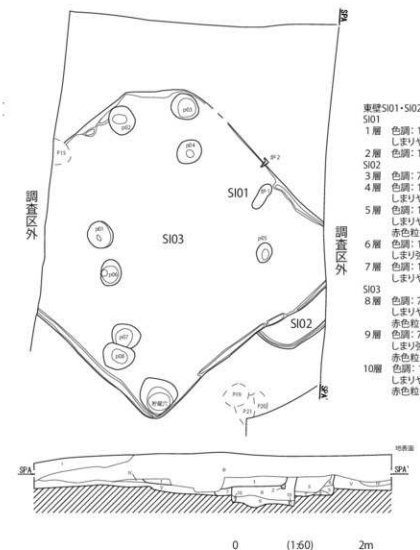
第１節　弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

１　竪穴建物

第１号竪穴建物－SI01

遺構（第８、９図　図版２－１、２）

位置：B・C－２・３グリッド。重複関係：SI02、SI03を切る。平面形・規模：炉跡と東壁断面のみ残存しているため、形状は不明である。東壁断面での長さは2.6mとなる。断面上の深さは不明。主軸方位：不明。覆土：断面２か所と炉跡２か所で覆土を観察した。３層に分層し、自然堆積と考えられる。



第８図　第１・２・３号竪穴建物実測図（SI01・02・03）

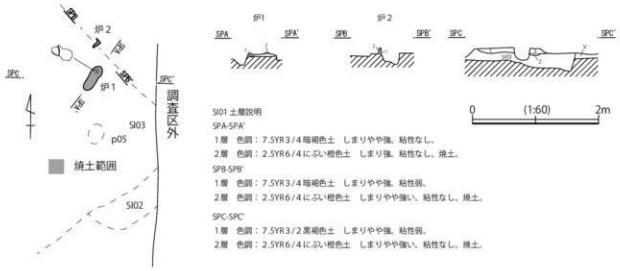
付属遺構：炉跡２基（図版２－１、２）

遺物（第 10 図　第２表　図版４－１）

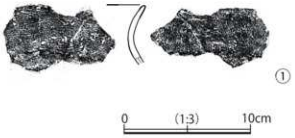
出土状況：本遺構からは、土師器４点 32.1 ｇが出土した。

時期

出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。



第９図　第１号竪穴建物実測図（SI01）



第 10 図　第１号竪穴建物出土遺物実測図（SI01）

第２表　第１号竪穴建物出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
10-1	SI01	土師器 甕	口縁部	－ － －	23.9	外面	ハケメ(縦)	φ1mm以下白色粒子微量 φ1～3mm橙色粒子多量 φ1mm小礫微量	良	外面	にぶい橙(7.5YR5/3)	
4-(SI01)-1						内面	ハケメ(横)			内面	橙灰(7.5YR4/1)	

第２号竪穴建物－ SI02

遺構（第 11 図　図版２－３）

位置:B･C －３グリッド。重複関係:SI01、SI03 に切られる。平面形･規模:大部分を SI03 に切られ、東側は調査区外に伸びる。残存部が南側角のみであるため、全体形状は不明であるが隅丸方形を呈すると推測される。確認できる範囲であるが長径 2.4m、短径 2.1 m、深さは 0.34m である。主軸方位:N －45°－W。覆土：１箇所で覆土を観察した。３層に分層し、自然堆積と考えられる。

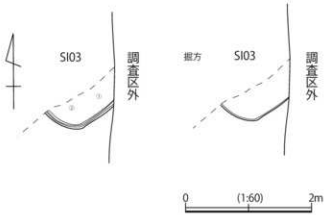
付属遺構：壁際に周溝が巡る。

遺物（第 12 図、第３表、図版４－１、２）

出土状況：本遺構からは、土師器３点 14.5 ｇの遺物が出土した。

時期

出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。



第 11 図　第２号竪穴建物実測図（SI02）

第 12 図　第２号竪穴建物出土遺物実測図（SI02）

第３表　第２号竪穴建物出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 最高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
12－1 4－(SI02)－1	SI02	土師器 壺	胴部	－ (0.3) －	5.1	外面	ナデ(横)	◎1mm以下白色粒子小量 ◎1mm以下小礫極少量	普通	外面	にぶい赤橙(5YR5/4)	
						内面	ナデ(横)			内面	橙(5YR6/6)	
12－2 4－(SI02)－2	SI02	土師器 壺	口縁部	－ (2.6) －	6.3	外面	ナデ(縦)　ナデ(斜め)	◎1mm赤粒多量 ◎1mm以下赤色粒子少量	普通	外面	灰白(10YR8/2)	折り返し口縁
						内面	ナデ(横)			内面	灰白(10YR8/2)	

第３号竪穴建物－SI03

遺構（第13、14図　図版２－４、５、６）

位置：A～C－１～４グリッド。重複関係：SI01、P15に切られ、SI02を切る。平面形・規模：２区中央に位置し、東西の隅は調査区外に続く。北側角がゆるやかな弧状を呈し、南側角に貯蔵穴を有する隅丸方形の竪穴建物である。長軸は4.63m、短軸が4.2m。確認面と床面の深さは0.05～0.2mと薄く、掘方の深さは0.1～0.34mで中央部が　高くなる。主軸方位：N－55°－E。覆土：５箇所で覆土を観察した。12層に分層し、自然堆積と考えられる。

付属遺構（第15・16図）

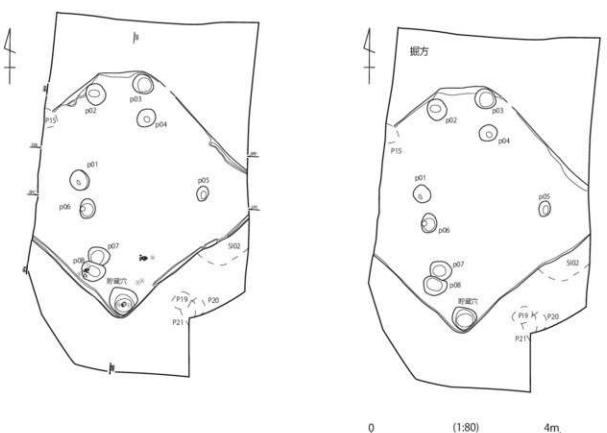
貯蔵穴を１基、ピットを８基確認できたが、明確な柱穴は確認できなかった。

遺物（第17、18図、第４表、図版４－１～11）

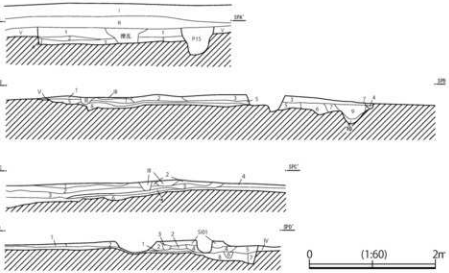
出土状況：本遺構からは、677点3034.3ｇの遺物が出土した。土師器664点2360.3ｇ、石製品13点674.0ｇである。その内、ピットからは土師器９点34.9ｇ、貯蔵穴からは土師器58点281.3ｇ、石製品４点575.4ｇが出土している。

時期

出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。



第13図　第３号竪穴建物平面実測図（SI03）



SI 03　土層説明

SPA-SPA'

1 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5mm 微量、赭土中量含む。

2 層　色調：7.5YR 4/1 褐灰色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 微量、赭土中量含む。

3 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまり極強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 少量、灰白色粘土φ5mm 多量含む。

4 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまりやや強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～2mm 中量含む。

SPB-SPB'

1 層　色調：5YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、
黄褐色土φ2～5mm 微量含む。

2 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、
黄褐色土φ2mm 微量含む。

3 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ2mm 微量、赤色粒子φ1mm 微量、
灰白色粘土φ2mm 中量含む。

4 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ1mm 中量含む。

5 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまり強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5cm 多量含む。

6 層　色調：10YR 3/4 暗褐色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5cm 中量、灰白色粘土φ5mm 中量含む。

7 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまりやや強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5cm 中量含む。

8 層　色調：10YR 3/3 暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。
赤色粒子φ2mm 少量含む。

9 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土φ2～5mm 微量、赤色粒子φ1～2mm 微量含む。

10 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまりやや強、粘性強。
黄褐色土φ1cm 多量、赤色粒子φ2～5mm 中量含む。

PC-SPC'

1 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、黄褐色土φ2～5mm 微量含む。

2 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまりやや強、粘性やや弱、
褐色粒子φ2mm 微量、赤色粒子φ1mm 微量、灰白色粘土φ2mm 中量含む。

3 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、黄褐色土φ2mm 微量含む。

4 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5mm 微量含む。

5 層　色調：10YR 3/3 暗褐色土　しまりやや弱、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5cm 中量含む。

6 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまり極強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 多量、灰白色粘土φ5mm 中量含む。

SPD-SPD'

1 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
黄褐色土φ1～5mm 微量、赭土中量含む。

2 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、黄褐色土φ2mm 微量含む。

3 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまりやや弱、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 少量、赤色粒子φ2mm 微量含む。

4 層　色調：5YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、
黄褐色土φ2～5mm 微量含む。

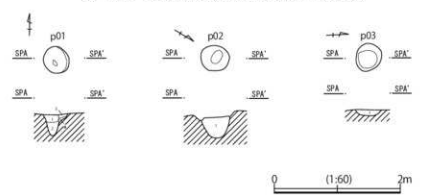
5 層　色調：10YR 3/3 暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。
赤色粒子φ2mm 少量含む。

6 層　色調：10YR 3/1 黒褐色土　しまり強、粘性やや弱、
褐色粒子φ5mm 中量、赤色粒子φ1mm 微量、黄褐色土φ2mm 微量含む。

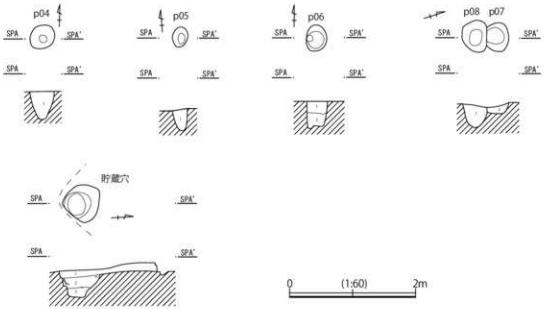
7 層　色調：10YR 3/2 黒褐色土　しまりやや弱、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 少量、赤色粒子φ2mm 微量含む。

8 層　色調：7.5YR 3/3 暗褐色土　しまり極強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm 少量、灰白色粘土φ5mm 多量含む。

第 14 図　第 3 号竪穴建物断面実測図（SI03）



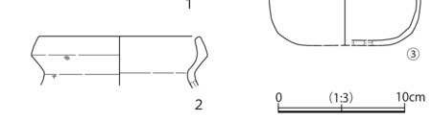
第 15 図　第 3 号竪穴建物内ピット実測図（SI03）（1）



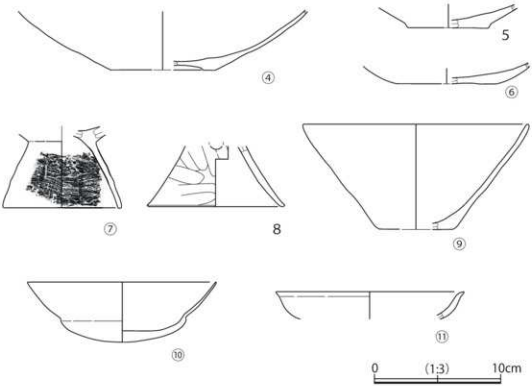
p01　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色粒φ2～5mm微量、灰白色土量φ2～5mm微量含む。
2層　色調：10YR3/2黒褐色土　しまりやや強い、粘性なし。
黄褐色土φ1～5cm極多量含む。
3層　色調：10YR3/3暗褐色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色土φ5mm中量含む。
4層　色調：10YR3/2黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土φ5mm極多量含む。
p02、p03、p04、p05　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性やや弱。
黄褐色土φ2mm微量含む。
P06　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性やや弱。
黄褐色土φ2mm微量含む。
2層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや弱、粘性弱。
黄褐色土φ1～5cm極多量含む。

p07、p08　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/2黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土φ2～5mm少量含む。
2層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性やや弱。
黄褐色土φ2mm微量含む。
貯蔵穴　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまり強、粘性やや弱。
褐色粒子φ2mm微量、赤色粒子φ1mm微量、
灰白色粘土φ2mm中量含
2層　色調：10YR3/2黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土φ2～5mm微量、赤色粒子φ1～2mm微量含む。
3層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性強。
黄褐色土φ1cm多量、赤色粒子φ2～5mm中量含む。

第16図　第3号竪穴建物内ピット実測図（2）（SI03）



第17図　第3号竪穴建物出土遺物実測図（SI03）（1）



第 18 図　第 3 号竪穴建物出土遺物実測図（SI03）（2）

第 4 表　第 3 号竪穴建物出土遺物観察表

神図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	部位	法量(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調		備考
14-1 4-(SI03)-1	SI03	土師器 壺	口縁	[3.2] —	21.4	外面 ヘラ(縦)→横ナデ→口縁端文，口縁部には刻み 内面 横ナデ，一部赤彩	φ1～3mm赤色粒少量 φ1mm以上小礫少量	良	外面 にぶい橙(7.5YR7/4) 内面 にぶい橙(7.5YR7/4)		新潟し口縁
14-2 4-(SI03)-2	SI03	土師器 壺	口縁	[13.0] [4.1] —	35.3	外面 横→ケ→横ナデ 内面 ナデ(横)か	φ1mm白色粒少量 φ1mm赤少量	良	外面 灰白(7.5YR8/2) 内面 灰白(7.5YR8/2)		
14-3 4-(SI03)-3	SI03	土師器 壺	胴部	— [7.7] [6.8]	(105.6)	外面 ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1～3mm赤色粒多量 φ1mm以下白色粒子微量	普通	外面 明赤褐(5YR5/6) 内面 橙(7.5YR7/6)		外面：炭化物付着
15-4 4-(SI03)-4	SI03	土師器 壺	底部～胴部	— [4.7] [6.2]	56.6	外面 ナデ(横) 内面 ナデか，底部はヘラ→ナデ	φ1mm以下白色粒子少量 φ2mm以上小礫微量	良	外面 にぶい黄橙(10YR7/4) 内面 にぶい黄橙(10YR7/2)		
15-5 4-(SI03)-5	SI03	土師器 壺	底部	— [1.6] [7.0]	68.9	外面 ナデか 内面 ナデか	φ1mm白色粒少量 φ1mm赤色粒少量	不良	外面 橙(5YR7/6) 内面 橙(5YR6/6)		
15-6 4-(SI03)-6	SI03	土師器 壺	底部	— [1.8] [8.0]	33.3	外面 ナデか 内面 ナデか	φ1mm以下白色粒中量 φ1mm以下砂少量	不良	外面 橙(7.5YR7/6) 内面 橙(5YR6/6)		外面：炭化物付着
15-7 4-(SI03)-7	SI03	土師器 台付甕	脚部	— [6.5] [8.4]	(70.4)	外面 ヘケ(縦)→ナデ(縦)か 内面 ヘケ(横)	φ1～3mm白色粒少量 φ1mm以下白色粒子少量 φ2mm以下赤色粒子微量	普通	外面 にぶい橙(7.5YR7/3) 内面 橙(7.5YR6/6)		
15-8 4-(SI03)-8	SI03	土師器 高杯か	脚部	— [4.8] [11.0]	27.7	外面 ナデ(縦)→ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1mm子礫少量	良	外面 浅黄橙(7.5YR8/3) 内面 灰白(7.5YR8/2)		
15-9 4-(SI03)-9	SI03	土師器 鉢	底部～口縁部	[16.0] 8.4 [5.8]	80.2	外面 ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1～3mm赤色粒多量 φ1mm以下白色粒子微量	普通	外面 灰褐(7.5YR4/3) 内面 褐灰(5YR4/2)		
15-10 4-(SI03)-10	SI03	土師器 鉢	底部～口縁部	[15.0] 4.9 10.0	99.6	外面 ナデ(横) 内面 ナデ(横)	φ1mm以下白色粒子少量 φ3mm以下赤色粒子微量	良	外面 褐橙(5YR6/4) 内面 明褐灰(5YR7/2)		貯蔵穴より出土
15-11 4-(SI03)-11	SI03	土師器 鉢	口縁部	[15.0] [2.2] —	26.9	外面 横ナデ 内面 ナデ(横)	φ1mm赤色粒中量 φ1mm赤色粒少量 φ3mm以下白色粒子少量	良	外面 浅黄橙(7.5YR8/4) 内面 灰白(7.5YR8/2)		貯蔵穴より出土

2　周溝状遺構

第１号周溝状遺構―SX01

遺構（第19図　図版２－７、８）

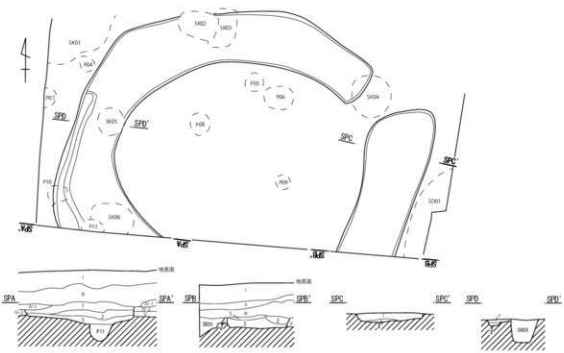
位置:D～G－２～４グリッド。重複関係:SK02に切られ、SK03、04、05、06、P10、11を切る。平面形・規模：１区の中央に位置し南側は調査区外に伸びる。北側は緩やかな弧状を呈し、北東側が間口部となっている。西溝外側には溝状の堀込みを有している。長軸9.4m、短軸9.4m、上端幅が1.76～0.69m、下端幅1.66～0.62m。確認面からの深さは0.14～0.1mであり、堆積は薄い。断面形状は、逆台形状を呈する。主軸方位:N－45°－E。覆土：４箇所で覆土を観察した。３層に分層し、自然堆積と考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器５点39.7ｇが出土した。

時期

覆土と出土遺物から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



SX01　土層説明　SPA-SPA'

１層　色調：１０YR３/３暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。褐色土φ１～５cm多量含む。

２層　色調：１０YR３/３暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。褐色土φ１～５mm極微量含む。

３層　色調：１０YR３/１黒褐色土　しまりやや粗い、粘性なし。褐色土φ５～１０cm多量含む。

SPB-SPB'

１層　色調：１０YR３/２黒褐色土　しまり強、粘性なし。黄褐色土φ１～２mm微量、赤色粒子φ１～２mm微量含む。一部グライ化。

２層　色調：１０YR３/１黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。黄褐色土φ１～５mm多量含む。一部グライ化。

３層　色調：１０YR３/２黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。黄褐色土φ１～２mm微量、褐鉄鉱多量含む。一部グライ化。

SPC-SPC'、SPD-SPD'

１層　色調：１０YR３/３暗褐色土　しまり強、粘性なし。黄褐色土φ１～２mm少量、赤色粒子φ１～２mm微量含む。

２層　色調：１０YR３/１黒褐色土　しまりやや強、粘性なし。黄褐色土φ１～５mm多量含む。

第19図　第１号周溝状遺構実測図（SX01）

3　土坑

第１号土坑―SK01

遺構（第 20 図）

位置：D・E－１・２グリッド。重複関係：P01・P02 に切られている。平面形・規模：調査区１の北西角に位置し、北側と西側は調査区外に続く。平面は南側がゆるやかな弧状となり、北東側へ伸びる。はっきりとしたプランは確認できなかったが楕円形を呈すると見られる。初めは竪穴建物としていたが、壁が緩やかに立ち上がるため土坑とした。長軸 1.96m、短軸 1.76m。確認面からの深さは 0.48m である。断面形状は、平坦な底部からゆるやかな立ち上がりを見せる。主軸方位：不明。覆土：１箇所で覆土を観察した。３層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器６点 17.2 ｇの遺物が出土している。

時期

出土遺物から、古墳時代前期と考えられる。

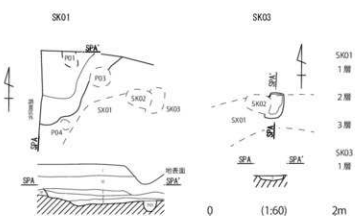
第３号土坑―SK03

遺構（第 20 図）

位置：E・F－２グリッド。重複関係：SX01 と SK02 に切られる。平面形・規模：隅丸長方形を呈する。長軸 0.62m、短軸 0.40m、深さは確認面より 0.22m である。断面形状は、皿状である。主軸方位：N－10°－E。覆土：１箇所で覆土を観察した。１層に分層し、自然堆積層と考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、土師器１点 6.0 ｇが出土している。



SK01 土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/3暗褐色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5cm少量含む。
2層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや弱、粘性なし。
黄褐色土φ1～5mm中量含む。
3層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや弱、粘性なし。
黄褐色土ブロックφ5～10cm極多量含む。
SK03 土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/4暗褐色土　しまり強、粘性なし。
黄褐色土φ1～5cm少量含む。

第 20 図　第１・３号土坑実測図（SK01・03）

時期

切り合い関係から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

第４号土坑―SK04

遺構 （第 21 図 図版３－１）

位置：G－２・３グリッド。重複関係：SX01 に切られる。平面形・規模：円形を呈する。長軸 0.68m、短軸 0.62m、深さは 0.44m である。断面形状は、円柱状で、柱穴の可能性がある。主軸方位：N－0°－W。覆土：1 箇所で覆土を観察した。3 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

時期

切り合い関係と覆土から、 弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。

第 6 号土坑―SK06

遺構（第 21 図 図版３－２））

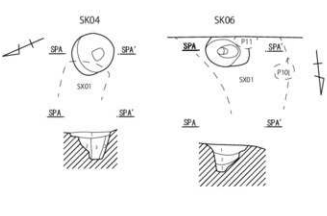
位置：D・E－３・４グリッド。重複関係：SX01 に切られ、P11 を切る。平面形・規模：南側の一部が調査地外に伸びているが、楕円形を呈するとみられる。長軸 0.72m、短軸 0.58m、深さは 0.44m である。断面形状は、西側が緩く立ち上がる円柱状で、柱穴の可能性がある。主軸方位：N－45°－W。覆土：1 箇所で覆土を観察した。 4 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、剥片 1 点 2.1 g が出土している。

時期

覆土と切り合い関係から、弥生時代後期後半から古墳時代前期と考えられる。



SK04 土層説明 SPA-SPA'
1 層 色調：10YR 3/3 暗褐色土 しまりやや弱、粘性弱。
黄褐色土 φ 5～10mm 中量含む。
2 層 色調：10YR 3/1 黒褐色土 しまりやや弱、粘性弱。
黄褐色土 φ 5cm 多量含む。
3 層 色調：10YR 3/1 黒褐色土 しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土 φ 2～5mm 少量含む。
SK06 土層説明 SPA-SPA'
1 層 色調：10YR 3/1 黒褐色土 しまり強、粘性なし。
黄褐色土 φ 1～5cm 中量、赤色粒子 φ 1～2mm 中量含む。
2 層 色調：7.5YR 4/1 褐灰色土 しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土 φ 2～5mm 微量、赤色粒子 φ 1～2mm 微量含む
3 層 色調：10YR 4/1 褐灰色土 しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土 φ 1mm～1cm 多量、赤色粒子 φ 2～5mm 中量含む

第 21 図 第 4・6 号土坑実測図（SK04・06）

第２節　古代から近世の遺構と遺物

１　溝状遺構

第１号溝状遺構―SD01

遺構（第 22 図）

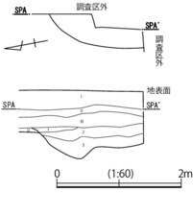
位置：G－３・４グリッド。重複関係：重複関係なし。平面形・規模：１区南東側に位置し、南側と東側が調査区外に伸びているため全体の形状は不明。残存部分の長さは 4.3m、上端幅が 0.30 ～ 0.47m。確認面からの深さは 0.55m である。断面形状は、底部が未検出のため不明。主軸方位：不明。覆土：１箇所で覆土を観察した。３層に分層し、自然堆積であると考えられる。土層はグライ化しており、褐鉄鉱が多量に含まれている。

遺物

出土状況：本遺構からは、陶器１点 1.4 ｇの遺物が出土している。

時期

覆土と出土遺物から、近世と考えられる。



第 22 図　第１号溝状遺構実測図（SD01）

第２号溝状遺構―SD02

遺構（第 23 図　図版３－３）

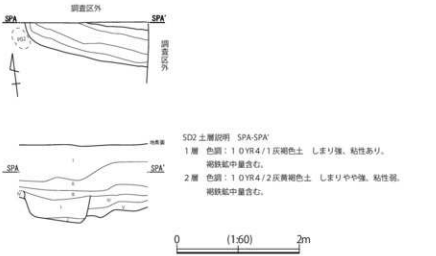
位置：G・H－２グリッド。重複関係：重複関係なし。平面形・規模：１区北東側に位置し東西に直線状に伸び、北側で屈曲している可能性がある。残存している長さ 2.12m、上端幅が 1.02 ～ 0.54m、下端幅 0.38 ～ 0.1m。確認面からの深さは 0.52m である。断面形状は、逆台形状である。主軸方位：N－72°－W。覆土：１箇所で覆土を観察した。２層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、10 点 66.6 ｇの遺物が出土した。土師器５点 16.5 ｇ、磁器２点 7.3 ｇ、陶器３点 42.8 ｇである。

時期

覆土と出土遺物から近世と考えられる。



第 23 図　第 2 号溝状遺構実測図（SD02）

2　土坑

第 2 号土坑―SK02

遺構（第 24 図　図版 3 － 4）

位置：E － 2 グリッド。重複関係：SX01 と SK02 を切っている。平面形・規模：隅丸方形を呈する。長軸 1.00m、短軸 0.38m、深さは 0.28m である。断面形状は、U 字状である。主軸方位：N － 80° － W。覆土：1 箇所で覆土を観察した。3 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物（第 25 図、第 5 表、図版 5 － 1）

出土状況：本遺構からは、2 点 84.9 g が出土している。土師器 1 点 5.3 g、石製品 1 点 79.6 g である。その内石製品 1 点を図化した。

時期

切り合い関係から、古墳時代から平安時代と考えられる。

第 5 号土坑―SK05

遺構（第 24 図）

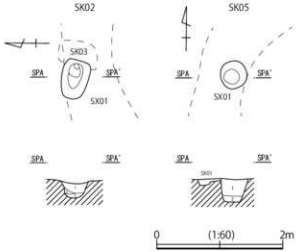
位置：E － 3 グリッド。重複関係：SX01 を切っている。平面形・規模：円形を呈する。長軸 0.46m、短軸 0.43m、深さは 0.37 ある。断面形状は、U 字状である。主軸方位：N － 0° － E。覆土：1 箇所で覆土を観察した。2 層に分層し、自然堆積であると考えられる。

遺物

出土状況：本遺構からは、遺物は出土していない。

時期

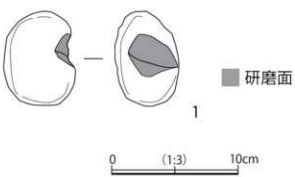
覆土と切り合い関係から中世以降と考えられる。



SK02　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性弱。
黄褐色土φ1～2mm少量、赤色粒子φ2～5mm中量、
白色粒子φ2～5mm微量含む。
2層　色調：10YR3/1黒褐色土　しまりやや強、粘性弱。
白色粒子φ2mm～5mm多量含む。
3層　色調：7.5YR4/1褐色土　しまりやや強、粘性なし。
黄褐色土ブロックφ2cm～5cm多量、赤色粒子φ2～5mm多量、
白色粒子φ1～2mm中量含む。

SK05　土層説明　SPA-SPA'
1層　色調：10YR4/1褐灰色土　しまりやや強、粘性なし。
褐色土φ1～5mm中量、炭化物φ5～10mm中量含む。
2層　色調：10YR3/3暗褐色土　しまりやや強、粘性なし。
褐色土φ1～5mm多量含む。

第24図　第２・５号土坑実測図（SK02・05）



第25図　第２号土坑出土遺物実測図（SK02）

第５表　第２号土坑出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別 器種	材質	法量(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
25-1 6-(SK02)-1	SK02	石器 砥石	軽石	－	80.0	燈明形の軽石を利用、右縁上部に研磨面を確認できる。 長さ7.5cm、幅5.8cm、厚さ5cm	－	－	－	

第３節　その他の遺構と遺物

１　ピット

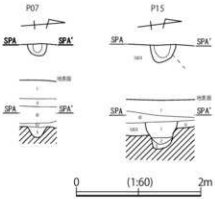
遺構（第２６図　図版３－５）

本調査では、全部で21基のピットを検出した。覆土がⅢ層に近いものを近世、Ⅳ層に近いものを中世以前とした。

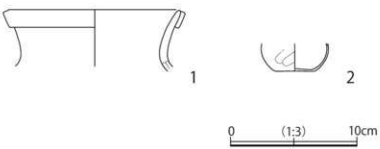
この内、第７号ピットと第 15 号ピットを図化した。第７号ピットは、１区西壁に位置し、土師器の壺１点が出土している。第 15 号ピットは、２区中央の壁際に位置し、第３号竪穴建物を切っている。西側は調査区外であるため全体の形状は不明であるが、ミニチュア土器が出土しているため、周溝状遺構の先端である可能性もある。ピットの計測値等は第７表に示した。

遺物（第 27 図、第６表、図版５－１・２）

出土状況：ピットから 26 点 130.6 ｇの遺物が出土した。その内、P07 は土師器１点 18.1g、P15 は土師器 13 点 6.4g が出土した。



第 26 図　第７・15 号ピット実測図（P07・15）



第 27 図　第７・15 号ピット出土遺物実測図（P07・15）

第６表　第７・15 号ピット出土遺物観察表

挿図番号 図版番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
27-1 5-ピット-1	P07	壺	口縁部	(14.0) [4.7] －	18.1	外面	ナデ（横）	φ1mm以下白色粒子微量 φ3mm以上黄褐色粒子中量	良	外面	赤灰（10R6/1）	折り返し口縁
						内面	ハケメ（斜め）→ナデ（横）			内面	赤灰（10R5/1）	
27-2 5-ピット-2	P15	ミニチュア土器	底部～胴部	－ [2.2] [3.0]	6.4	外面	ナデ（斜め）	φ1mm以下白色粒子微量 φ1mm以下赤色粒子微量	普通	外面	橙（2.5YR6/6）	
						内面	ナデ（横）			内面	にぶい橙（7.5YR6/4）	

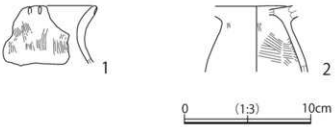
第７表　ピット計測表

遺構名	位置（グリッド）	平面形状	長軸長（m）	短軸長（m）	深さ（m）	出土遺物	備考
P01	D・E-1・2	方形	0.39	—	0.14	なし	
P02	F・G-2	楕円形	0.36	0.24	0.36	なし	
P03	E-2	円形	0.52	0.50	—	なし	近世
P04	D・E-2	円形	0.32	0.26	0.20	なし	
P05	F-2	円形	0.30	0.30	0.18	陶器1点　5.9g	近世
P06	F-2・3	不整形	0.48	0.36	0.08	土師器1点　1.1g	近世
P07	D-2・3	円形	0.20	—	0.18	土師器1点　18.1g	
P08	E-3	円形	0.36	0.31	0.20	なし	近世
P09	F-3	円形	0.24	0.24	—	なし	近世
P10	D-3	円形	0.36	0.32	0.14	なし	
P11	D・E-4	円形	0.35	0.20	0.28	土師器1点　2.1g	
P12	B-2	円形	0.54	0.36	0.40	土師器1点　1.7g 陶器1点　7.1g	近世 図無し
P13	B-2	円形	0.36	0.32	0.31	陶器1点　3.2g 礫1点　20.2g	近世 図無し
P14	A・B-2	楕円形	0.54	0.52	0.34	土師器1点　2.2g	近世 図無し
P15	A-2	円形	0.50	—	0.28	土師器13点　6.4g	
P16	B-3	円形	0.54	0.42		土師器8点　26.7g	近世 図無し
P17	A・B-3・4	円形	0.68	0.66	0.38	土師器8点　21.0g	近世 図無し
P18	B-4	円形	0.66	0.56	0.23	なし	近世 図無し
P19	B-4	円形	0.40	0.34	0.62	なし	
P20	B-4	円形	0.36	0.20	0.60	土師器3点　22.4g	
P21	B-4	円形	0.50	0.28	0.66	なし	

2　遺構外出土遺物

遺物（第 28 図、第 8 表、図版５－１・２）

本調査では、試掘調査時に出土した物を含め遺構外から 136 点 680.1 g の遺物が出土した。土師器 131 点 609.6 g、石製品２点、35.1 g、陶磁器１点 8.6 g、剥片２点 26.8 g である。このうち２点を図化した。他のものは第９表に遺構出土遺物及び遺構外出土遺物の点数、重量を示した。



第 28 図　遺構外出土遺物実測図

第 8 表　遺構外出土遺物観察表

掲図番号 図版番号	出土遺構	種別器種	部位	法量(cm) 口径 器高 底径	重量(g)	成形・技法の特徴		胎土	焼成	色調		備考
28-1	表土	土師器 甕	口縁部	(4.3) –	18.8	外面	ハケメ(縦)、口唇部刻み	φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1mm～3mm小礫微量	普通	外面	5Y黄褐(10YR4/2)	
5-(遺構外)-1						内面	ナデ(横)			内面	にぶい橙(7.5YR7/3)	
28-2	表土	土師器 台付甕	脚部	– (4.3)	36.6	外面	ハケメ(縦)→ナデテ、上面にハケメ	φ 1mm以下白色粒子微量 φ 1mm以下砂微量	普通	外面	橙(5YR6/6)	
5-(遺構外)-3						内面	ハケメ(横)			内面	にぶい橙(5YR6/4)	

第 9 表　遺物出土点数・重量一覧

遺構	土師器		須恵器		石製品		陶磁器		その他			合計	
	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	点数	重量（g）	種別	点数	重量（g）
SI01	4	32.1										4	32.1
SI02	3	14.5										3	14.5
SI03	664	2360.3			13	674.0						677	3034.3
SX01	5	39.7										5	39.7
SD01							1	1.4				1	1.4
SD02	5	16.5					5	50.1				10	66.6
SK01	6	17.2										6	17.2
SK02	1	5.3			1	79.6						2	84.9
SK03	1	6.0										1	6.0
SK04									1	2.1	剥片	1	2.1
SK05												0	0.0
SK06	6	17.2										6	17.2
Pit	44	127.2	1	5.9	1	20.2	2	10.3				48	163.6
遺構外	112	510.5			1	27.1	1	8.6				114	546.2
試掘	19	99.1			1	8.0			2	26.8	剥片	22	133.9
合計	870	3245.6	1	5.9	17	808.9	9	70.4	3	28.9		900	4159.7

第４章　まとめ

今回の鍛冶谷・新田口遺跡第１１次調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期の竪穴建物３基、周溝状遺構１基、土坑４基、古代から中世までの土坑２基、近世の溝状遺構２条、時期不明のピット２１基を検出した。ここでは今回の遺構・遺物の中心となっている弥生時代後期後半から古墳時代前期までの様相について述べる。

１　弥生時代後期後半から古墳時代前期の遺構と遺物

本次の調査では、３基の竪穴建物を検出し、出土遺物と切り合い関係から全て古墳時代前期のものと見られる。

第１号竪穴建物は、炉跡２基と壁断面で確認したのみであるため、形状や軸などは不明である。第２号竪穴建物と第３号竪穴建物を切っているため、一番新しい竪穴建物と考えられる。

第２号竪穴建物は、角部分と思われる個所を検出した。全体の形状は部分的な検出であったため不明であるが、壁断面を見る限り掘り込みが深く、周溝が巡っていたと思われる。推定の長径は 2.4m、短径は 2.1 mであり、鍛冶谷・新田口遺跡の中でも小規模の分類に入る。類似するものとして事業団で報告された第１号住居跡が挙げられる。

第３号竪穴建物は東・西端が検出されていないが、長軸は 4.63m、短軸が 4.2m でほぼ全体が検出されている。付属遺構としてピット・貯蔵穴と周溝を伴っているが、ピットの配列から規則性を見出すことはできないため、柱穴の有無は不明である。遺物は、南側から多く出土しているが、破片のものが多く、完形に近いものは貯蔵穴より出土した鉢型土師器のみである。

今回の調査で検出した竪穴建物３基を含めると、鍛冶谷・新田口遺跡において検出された竪穴建物は、61 基（第１次１基、第５次２基、第７次６基、第８次 12 基、第 10 次１基、事業団 36 基）を数える。事業団の報告書では、竪穴建物は全て古墳時代前期としており、今回出土した竪穴建物の時期と同じである。今回の調査では竪穴建物３基が切り合う形で検出されたため、遺構・遺物を３時期に分けられる可能性があるが、第１・２号竪穴建物は遺物が少ないため、新旧を判断するのみで、時期差などを判断することは出来なかった。

また、事業団の報告書では、埼京線より東側には竪穴建物が伸びない可能性を指摘していたが、今回事業団の調査地東側に隣接する個所で竪穴建物を検出したことで、竪穴建物の分布範囲が東側にも続いていることが明らかとなり、集落範囲が現在よりも大きく広がることが予想されるようになった。

第１号周溝状遺構は、１区中央で確認し、形状は円形に近い隅丸方形状を呈する。掘り込みが浅く、出土遺物も土師器片が少量出土しているのみである。

現在周溝状遺構の性格については、方形周溝墓以外に周溝をもつ住居跡の可能性が指摘されており、周溝内に柱穴が見られる場合や、溝幅が狭い場合などは周溝を持つ住居跡の可能性強くなっている。今回検出された第１号周溝状遺構は、周溝に伴うピットや竪穴、土坑を検出していないため、周溝状遺構の性格を類推する手がかりが少なく、性格については断言できないものの、規模が小さいため周

溝を持つ住居跡の可能性が高い。ただ、西溝に側溝を伴っていることや、掘り込みが浅いことなどから、竪穴建物の掘方の可能性もあり、周溝状遺構の分布が鍛冶谷・新田口遺跡の東側に伸びるかについては、今後の発掘調査の蓄積の中で判断したい。

2　まとめ

今回の調査では、77.37 ㎡と調査区が狭いにも関わらず、古墳時代前期の竪穴建物３基と弥生時代後期後半から古墳時代前期までの周溝状遺構１基を検出することができた。竪穴建物と周溝状遺構は鍛冶谷・新田口遺跡を構成する集落の代表的な住居形態であるため、埼京線の東側で確認できたことは大きな成果であり、鍛冶谷・新田口遺跡の範囲が包蔵地の東側にも広がることを明らかにすることができた。今後も継続的な調査を行うなかで鍛冶谷・新田口遺跡の性格や集落の範囲、また周溝状遺構と竪穴建物の時期差、性格について明らかにしていきたい。

参考文献

岩井聖吾
2015 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅸ』 戸田市文化財調査報告ＸＸⅢ　戸田市教育委員会
2016 『鍛冶谷・新田口遺跡Ⅹ』 戸田市文化財調査報告ＸＸⅣ　戸田市教育委員会

田辺晋
2013「東京低地と中川低地における最終氷期最盛期以降の古地理」『地學雑誌』122 巻 6 号

西口正純ほか
1986『鍛冶谷・新田口遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 62 集　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

福田聖
2000『方形周溝墓の再発見』同成社

吉田幸一
2019 『前谷遺跡Ⅵ』 戸田市文化財調査報告ＸＸⅧ　戸田市教育委員会

写　真　図　版

1　1区完堀（東から）

2　2区完堀（北西から）

1　第１号竪穴建物炉１断面　（南から）

2　第１号竪穴建物炉２断面　（南から）

3　第２号竪穴建物掘方　（南から）

4　第３号竪穴建物床面全景　（南西から）

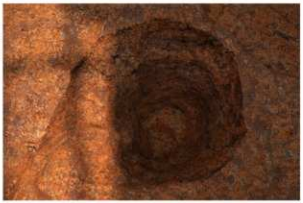
5　第３号竪穴建物掘方全景　（北東から）

6　第３号竪穴建物遺物出土状況（北東から）

7　第１号周溝状遺構完堀　（北西から）

8　第１号周溝状遺構南壁断面　（北から）

図版 3



1　第４号土坑完堀　（西から）

2　第６号土坑完堀　（北から）

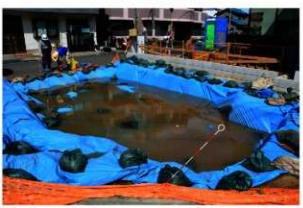
3　第２号溝状遺構完堀　（東から）

4　第２号土坑遺物出土状況　（北西から）

5　第 15 号ピット遺物出土状況　（南東から）

6　基本土層　（西から）

7　２区掘削作業状況　（南から）



8　２区冠水状況（南西から）

第１号竪穴建物

①

第２号竪穴建物

①

②

第３号竪穴建物

1

2

③

④

5

⑥

⑦

8

⑨

⑩

⑪

図版 5 出土遺物②

第２号土坑

1

第７号ピット

1

第 15 号ピット

2

遺構外出土

1

2

報告書抄録

ふりがな	かじやしんでぐちいせきじゅういち　まいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	鍛冶谷・新田口遺跡XI　埋蔵文化財発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	戸田市文化財調査報告
シリーズ番号	31
編著者名	今井　源吾
編集機関	戸田市教育委員会
所在地	〒335－8588　埼玉県戸田市上戸田 1-18－1　℡ 048（441）1800
発行年月日	2021（令和3）年 3 月 29 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かじや しんでぐち いせき 鍛冶谷・新田口遺跡 だいじゅういちじちょうさ 第11次調査	とだし ふみとだ 戸田市上戸田 5丁目15番12	11224	06－001	35° 48′ 45″	139° 40′ 24″	2019.8.1 ～ 2019.9.30	77.37	個人住宅 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鍛冶谷・新田口遺跡	集落跡	弥生時代 後期後半 ～ 古墳時代 前期	竪穴建物　3基 周溝状遺構　1基 土坑　4基	土師器 石製品	
		古代～ 近世	溝状遺構　2条 土坑　2基	土師器 陶磁器 石製品	
		その他	ピット　21基	土師器 須恵器 陶磁器	

要約

本調査地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である鍛冶谷・新田口遺跡の包蔵地範囲に属し、JR埼京線戸田駅から南に約600mの戸田市上戸田５丁目15番12に所在する。

鍛冶谷・新田口遺跡は、荒川・入間川・荒川によって形成された平坦な沖積地（荒川低地）に氾濫や流路変更によって左岸に発達した微高地上に立地している。

調査の結果、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭では竪穴建物３基、周溝状遺構１基と土坑４基を検出した。古代から近世では近世の溝状遺構２条、土坑２基を検出した。その他時期不明のピットを21基検出した。出土遺物は弥生時代後期後半から古墳時代前期までの土師器、近世の陶磁器を検出した。

今回の発掘調査によって、調査区周辺は弥生時代後期後半から古墳時代前期の竪穴建物と周溝状遺構が形成された区域にあたることが判明した。

戸田市文化財調査報告　31

鍛冶谷・新田口遺跡Ⅺ
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行・編集　埼玉県戸田市教育委員会
〒335－8588　埼玉県戸田市上戸田１－１８－１
印　　刷　関東図書株式会社
〒336－0021　埼玉県さいたま市南区別所３－１－１０
発 行 日　令和３年３月２２日